

## 第42回 スポーツリレートークレポート

2019年6月25日(火) 19:00～20:30

仙台市青葉区中央市民センター 第1会議室 参加者 26名

スピーカー 千葉 泰伸 氏 ヴォスクオーレ仙台 育成ディレクター

「私の夢」～ ボールひとつでつながろう

宮城県石巻市出身。石巻工業高校から順天堂大学に進学。卒業後は株式会社東芝に入社JFLリーグ東芝サッカー部でプレー。1996年にブランメル仙台へ移籍しプロ選手となるもベガルタ仙台と名称を変えた1999年引退。ジェフユナイテッド市原の育成部コーチを経て、2001年からベガルタ仙台のアカデミーコーチとして幼時から高校生までを指導、中学生、高校生チームの監督を務める。2012年にベガルタ仙台レディースが発足し初代監督就任。レディースチームの監督、育成部長、強化育成部長として7年間携わり昨年ベガルタ仙台を退団。

現在は、フットサルチームでFリーグ1部に所属するヴォスクオーレ仙台の育成ディレクターを務めている。



### <自己紹介>

最初に自己紹介をしたいと思います。私は石巻市渡波出身で震災で被害を受けたことで、自分の人生も変わりました。石巻工業から当時は大学サッカーの強豪だった順天堂大学に、自分のような無名の高校から行ってどれくらい通用するか知りたかったこと、さらに教員にもなりたかったということで進学しました。

大学2年のときにJリーグが発足しましたが、大学をでてすぐにプロにはなれずにJFLの東芝で2年間プレーしました。その後東芝がコンサドーレに身売りし、そのまま残る選択肢もありましたが、地元ブランメル仙台から声がかかり、仙台に戻りました。現役としてプレーしたのが4年間、当時は選手とボランティアの接点はありませんでしたが、長い時間を経てこうして接点が生まれるのも運命だと思います。

監督が変われば戦術もかわり、出場機会が減って引退し最初は教員になろうと思いましたが、ジェフユナイテッド市原が仙台にスクールを開設する、ということで声をかけていただき指導者になりました。その指導が楽しくなり2年めに正式な職員になりました。その後ベガルタのスクールに戻り18年ほど勤め、結果として37年間ずっとサッカーでした。



今年ベガルタを辞めて、外からサッカーをみる機会が増えて初めてスポーツ全体を見ることができるようになりました。

#### <私のゆめ>

2011年の震災の経験、それが私の人生を変えました。当時のマリーゼがベガルタ仙台レディースとなりその監督になったのです。そこで指導力やマネジメントなどの貴重な経験をさせていただきました。2011年にはなでしこジャパンがワールドカップで優勝しました。その時感じたのは、スポーツには人を「感動」させ、「笑顔」にし、「勇気」や「元気」を与えたり、「健康」にする力があること、そのことで「幸福」にもなるし「教育」にもつながるということでした。

監督のときにはみんなの準備してくれたところで試合をするだけでした。逆に今は支える側となり、又、自分は成長していると感じます。もちろん、ボランティアの皆さまにも感謝し、負けたとしても最後まで戦うことが大事だと思うようになりました。選手は単年度なので、自分が一番、自分のことだけを考えがちです。その意味では今は勉強させてもらっていると感じます。

スポーツを分類するとまず「競技スポーツ」があり、プロやアマチュアがあって、そこではアスリートの育成や子どもたちの可能性ということがあります。次に「生涯スポーツ」があり、こちらは楽しみながら健康をめざすということがあります。

スポーツのビジネス化がいわれ、オリンピック・パラリンピックの経済効果は32兆円、ラグビーのワールドカップは4,372億円といわれています。スクール事業などもビジネス化しています。そんな状況の中で、宮城には多くのプロスポーツがあります。プロ選手になるという「夢」と「目標」が目前にあるのですが、「夢」をかなえられるのは「ひとにぎり」です、それを私たちのちからでもう少し増やしたい、だから、「ボールひとつでつながろう」なのです。

#### <ボールひとつでつながろう>

スポーツにはさまざまなボール種目（球技）があります。このボール競技同志で横のつながりを作り一緒にやろう、そうすれば、互いに興味を持つかもしれません。そんな場を作りたいのです。特に子供はひとつの種目がだめでも、他のスポーツならいいかもしれません。今、遊びを通じていろいろなスポーツをする場を与える事で、子どもたちの可能性が広がると思うのです。もちろん、バスケットをして

いる子供にダンスをする機会を作るなど、文化的なもののかかわりもいいかもしれません。ただ強制はしたくないと思っています。

大人はもっとスポーツを楽しむ機会を作ってほしいと思います。もちろんその中で自分たちもたのしんでほしいのです。先日、フットサルとラクロスと一緒にやりました。初めてやりましたが楽しいものでした。共にやることで普及にもつながります。今、定期的に「チバヤス杯」というイベントをやっています。前はフットサル、8人制のソサイチ、そして誰でも楽しめるウォーキングサッカーをやりました。次は8月で、アルティメットを取り入れてみたいと思っています。私の知り合いにこのアルティメットの日本代表の選手がいます。彼は10年間サッカーをしていて代表にはなれませんでした。アルティメットを始めて代表となった選手です。他にもフットサルの間にボッチャもやってみたいと思います。

大切なのは固定観念を作らず、先に壁をつくらないことだと思います。まずはやってみようという精神です。宮城県のスポーツ界がひとつになればいいと思いますが、正直なかなか難しいでしょう。特にプロスポーツの組織は自分たちだけである程度出来てしまうからです。ならばせめて、アマチュアの人たちが一緒になってやるということはできるかもしれません。どでかいプロジェクトになりますが、

- 1) 仲間内で総合型スポーツクラブを作ろう
- 2) アスリートの育成と子どもたちの可能性を広げよう
- 3) スポーツからの豊かなまち

それが結果としてビジネスになればと思います。楽しくなければスポーツではありません。ヨーロッパのようにこどもから高齢者までが楽しめる、みるだけではない人間関係が生まれるといいなあ、と思います。

(2019/6/28 文責 泉田)

